第６学年　国語科学習指導案

児　童　　男 4 名　女 11 名　計 15 名
指導者　　菊　池　知　之

1　単元名　　生き方や考え方を読み取ろう　「海の命」(光村図書　六年下)

2　単元について

第５，６学年の学習指導要領「C 読むこと」の目標は，「目的に応じ，内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに，読書を通して考えを広げたり，深めたりしようとする態度を育てる」である。本単元では，「C 読むこと」の内容の，「ウ　登場人物の心情や場面についての描写など，優れた叙述を味わいながら読むこと。」を指導することに適した単元であると考える。本単元では，文章の叙述に即して読み取るとともに，自分の考えや生き方を考えながら読み深めていくことを主な目標としている。「海の命」は，海と関わる中での少年の成長を通し，生きることや自然との関わり方を考えさせられる物語である。場面構成は時間の流れに沿ったもので，貫いて流れるものは，太一の海に寄せる熱い思いであり，父の死を乗り越え父のような漁師をめざした成長の姿や，夢を追い，葛藤し，それらを乗り越えてより大きな人間になっていく太一の生き方が感動的に描かれている。物語の展開は，起承転結になっていて分かりやすく，「千びきに一ぴきでいいんだ。」という言葉をはじめとして，それぞれの場面で展開される一つ一つの表現は大変味わい深い。また，父をはじめとする様々な人物の設定や，「海の命」という象徴的な題名は，児童が多様な視点で作品に入り込むのに適した教材である。

児童は，これまで「カレーライス」で，登場人物の行動や言葉，情景描写などから心情の変化を読み取る学習をしている。また，「森へ」で，擬人法や比喩等，様々な表現方法が取り入れられた優れた情景描写に触れながら，筆者の心の動きと場面の情景を読み取る学習をしてきた。これらの学習を通して，児童は，登場人物の心情を叙述と関連づけて読み取ることで，自分の読みを深めることができるようになってきている。しかし，「一人学び」においては，読み取る過程で重要な語句や表現を自ら見つけ出し，それをきっかけにして主体的に読みを深めていくことのできる児童はまだ少なく，自分の考えを構成する際に明確な根拠を示すことのできる児童も少ない。そのため，「学び合い」において，自分の考えに自信が持てず，積極的に表現できないでいる。音読や視写についても個人差が大きく，正確さを欠いたり時間がかかったりする児童が少なくない。

指導にあたっては，人間の成長には周囲の人の存在が大きく関わっていること，また，主人公の太一にとっての海やクエのように，人間の成長には何らかの影響をもつ事柄や事象があることに気づかせながら，太一がたくましく成長する様子を読み取らせていきたい。「見通す」段階では，主題に関わらせた初発の感想を書かせ，課題作りや各場面の活動に生かしていきたい。また，単元全体を通した学習計画を立て，児童に学習を進める見通しをもたせたい。「深める」段階では，予習のための視写ノート作りを行い，主人公の心情や場面の様子について読みを深めるとともに，自分の考えをもってまとめを行うことができるように工夫していきたい。一人学びに際しては，事前に読みを深めるための視点を確認しておくことによって，児童が自分の学習に自信をもち，一人学びをスムーズに行うことができると考える。「確かめる」段階では，それまでの学習を基に題名の「海の命」とは，何を表しているのかを考え，本作品の主題に迫らせていく。「広げる」段階では，立松和平の他の作品を読み，ポスターセッションを行うことで，「海の命」と比べながら命について考えを広げさせていきたい。

本時の学習では，太一が父や祖父が住んでいた海をこよなく愛しており，父のような漁師になることを熱望していたことをしっかりと捉えさせてから学習を進めていきたい。視写ノートについては，事前に予習のために視写し，語句の意味調べや，心情の分かる部分にサイドラインを引いたり，書き込みを行うことにより，課題を把握しやすくするとともに，長文の理解や深い読みにつなげていきたい。「とらえる」段階では，前時までの太一の考えをつかみ，学習課題を斉読することで，意識化を図らせたい。「ふかめる」段階では夢であり，父を破った瀬の主であるクエを自分の手で仕留める機会に恵まれながら，なぜ太一はクエを仕留めなかったのか，太一の心情の変化を読み取ることによって，作品の主題である太一の生き方に迫っていきたい。「まとめる」段階では，本時のまとめを書く活動に，自己評価・相互評価を併せて取り入れることにより，指導と評価の一体化を図る。

3　単元の目標

◎　登場人物の生き方や考え方を，その言葉や行動から読み取る　（読 ア　ウ）

○　物語に対して自分の考え方や意見をもち，主題に迫りながら読み進めることができる。（読 エ）

※単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
・　主人公の生き方に関心をもち，進んで自分の考えを深めようとする。（ア）	・　文章の叙述に即して，登場人物の心情や場面の情景を深く読み取ることができる。（ウ） ・　物語に対して自分の考え方や意見をもち，主題に迫りながら読み進めることができる。（エ）	・　語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心を深めることができる。（ウ）

4　指導計画（10 時間）

過程	学習内容	主な学習活動	学習活動における評価規準
見通す (2)	全文を読んであらましをつかむ。	全文を読み，主題と関わらせながら初発の感想をもつ。	読－エ　主題に沿った感想を書き，物語に対する自分の考えを明確にすることができる。 A　自分の考えの根拠となる語句や表現を明確にし，まとめることができる。 B　物語から受けたイメージをもとに，自分の考えをまとめることができる。
		場面分けを行い，学習計画を立てる。	読－エ　場面毎に太一の心情に関わる課題をつくることができる。 A　場面の内容や太一の心情の変化に着目して課題をつくることができる。 B　太一の心情に着目して課題をつくることができる。
深める (5)	場面毎に読みを深める。	村一番の漁師だった父に対する太一の気持ちを読み取る。	読－ウ　村一番の漁師だった父に対する太一の気持ちを読み取ることができる。 A　漁師になりたいという強い気持ちは，父への尊敬の気持ちに基づいていることを読み取ることができる。 B　太一の言葉や行動から，漁師になりたいという強い気持ちを読み取ることができる。
		与吉じいさと漁に出ていた時の太一の気持ちを読み取る。	読－ウ　与吉じいさと漁に出ていたときの太一の気持ちを読み取ることができる。 A　なかなか漁をさせてもらえないもどかしさを感じながらも，与吉じいさの漁に対する考え方に父の面影を感じる太一の気持ちを読み取ることができる。 B　なかなか漁をさせてもらえず，もどかしい思いをしている太一の気持ちを読み取ることができる。
		与吉じいさの死に対する太一の気持ちを読み取る。	読－ウ　与吉じいさの死に対する太一の気持ちを読み取ることができる。 A　全ての命が海の恵みによるものだという考え方に基づき，与吉じいさへの感謝の気持ちを胸に，与吉じいさの死に向き合う太一の気持ちを読み取ることができる。 B　与吉じいさへの感謝の気持ちを胸に，与吉じいさの死に向き合う太一の気持ちを読み取ることができる。

		母の悲しみを背負いながらも，クエを求めて瀬に潜り続ける太一の気持ちを読み取る。	読ーウ　母の悲しみを背負いながらも，クエを求めて瀬に潜り続ける太一の気持ちを読み取ることができる。 A　母と太一との海に対する思いの違いを感じながら，父の海にやってきた太一の気持ちを読み取ることができる。 B　様々な描写をもとに，海の中の情景を想像し，父の海にやってきた太一の気持ちを読み取ることができる。
		太一のクエに対する考えが変化した様子やその心情を読み取ることができる。 （本時）	読ーウ　瀬の主である巨大なクエにもりを打たなかった太一の気持ちを読み取ることができる。 A　父や与吉じいさの言葉の意味を悟り，海の命を守ろうとする太一の，心の成長を読み取ることができる。 B　瀬の主である巨大なクエに出会い，どうしたらよいか葛藤しながらもクエを殺さなかった太一の気持ちを考えることができる。
確かめる (1)	自分の考えをまとめる。	父親になった太一の姿から太一の生き方を読み取り題名の「海の命」が何を表しているか考える。	読ーウ　父親になった太一の姿や，「千びきに一ぴき」とる生き方から「海の命」という題名が何を表しているか考えることができる。 A　海の命とは，海に生きる全ての生き物の命であり長い時間とともにつながっているということを読み取ることができる。 B　海の命とは，父や与吉じいさ，そして海の生き物全てということを読み取ることができる。
広げる (2)	同じ作者の作品を読む。	立松和平の他の作品「山のいのち」「川のいのち」などを読み，ポスターセッションを行う。	読ーア　立松和平の他の作品を読み，感想を交流し，紹介し合う。 A　「山のいのち」等の作品を「海の命」と比較しながら読み，いのちについての考えを広げることができる。 B　「山のいのち」等の作品を興味をもって読み，いのちについての考えを広げることができる。

5　本時の指導

（1）本時の目標

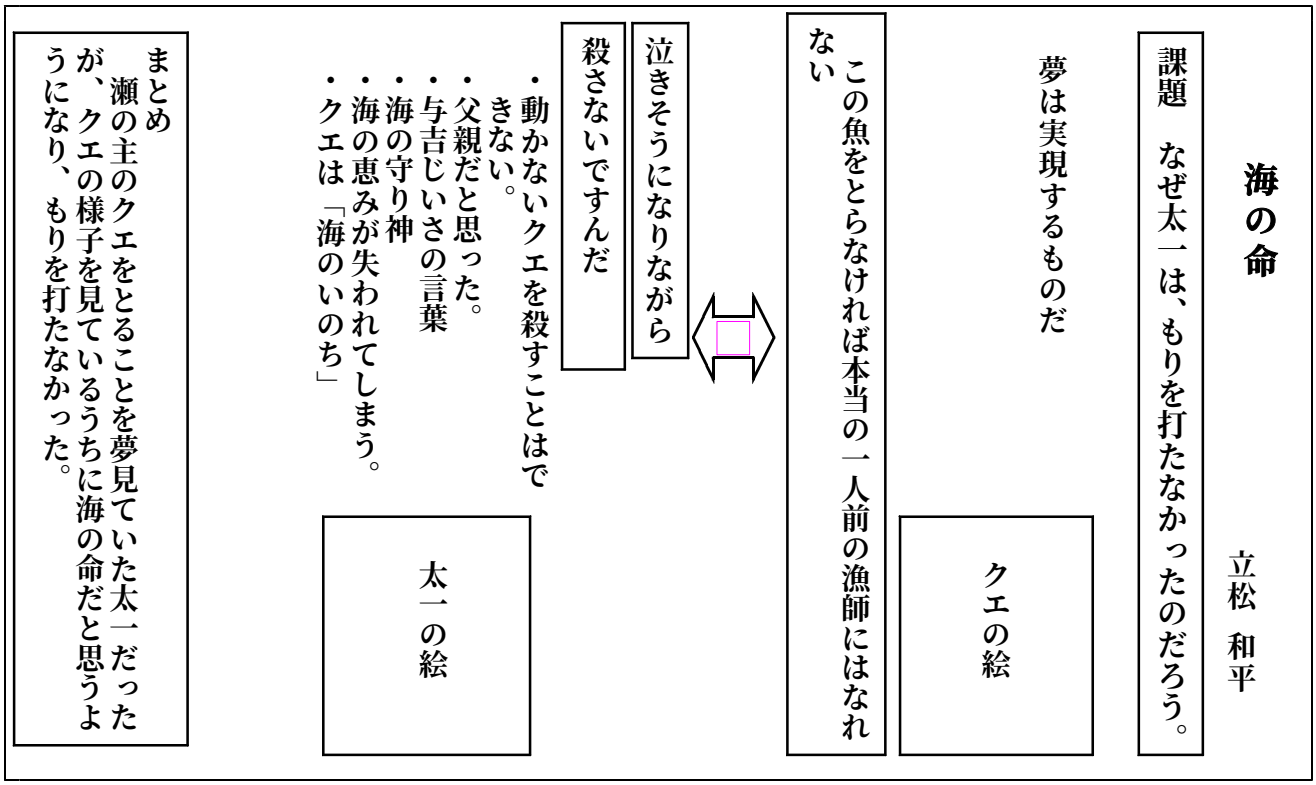
太一のクエに対する考えが変化した様子やその心情を読み取ることができる。

（2） 展開

過程	学習活動	学習活動に対する支援等 ※具体の評価規準
とらえる (3)	1　前時の学習を想起する。 2　学習課題を確認する。 なぜ太一は，瀬の主にもりを打たなかったのだろう。	・　前時までの学習から，太一が父の海に潜り瀬の主を探し続けていたことを想起させる。 ・　課題を斉読し，課題の意識化を図る。
ふかめる (34)	3　学習場面を音読する。 ○　学習場面（P78L4 ～ P81L2)を音読し，学習の見通しをもつ 。 ・　黙読 4　課題解決をする。 ○　太一にとっての「夢」やクエの様子について確認し場面の構造をおおまかにつかむ。 ・　クエを前にした時の太一の気持ちについて話し合う。 ○　クエにもりを打たなかった太一の気持ちが分かる部分を見つけ，太一の思いを読み取る。（一人学び） ・　ノートに，太一の気持ちが分かる部分を視写し，クエに対する気持ちについて書き込みを行う。 ○　クエにもりを打たなかった太一の気持ちについて話し合う。(学び合い) ◎　どうして太一は，クエにもりを打たなかったのだろう。	・　一人読みでは，問題解決の視点を意識しながら読ませる。 ・　課題解決に向けて，太一の行動や気持ちに着目していけばよいことに気づかせる。 ・　クエの描写に着目させ，父の仇であるクエを倒すことが，太一の夢であったことを想起させる。 ・　「一人前の漁師にはなれない」「泣きそうになりながら」という語句に着目させ，迷い葛藤する太一の気持ちについて考えさせる。 ・　太一の行動や会話文から，太一の気持ちを考えさせる。 ・　内面まで読み取ることができない児童には手がかりとなる叙述を示して気づかせるようにする。 ・　机間巡視を行い，児童の考えを把握する。 ・　根拠となる文を明確に示しながら，自分の考えを説明できるようにする。 ・　「殺さないで済んだ」という語句を取り上げ，太一がなぜそのように感じたのかを考えさせ，心情を深めたい。 ※具体の評価規準 ○　太一のクエに対する考えが変化した様子やその心情を読み取ることができる。 A　考えの変化や成長を文章からとらえて発言したり，友だちの考えと比べながら聞いたりして自分の読みを深めることができる。

		B　太一の考えが変化したところを見つけることができる。 （手立て） 太一の言葉や行動に目を向けさせ，最初にクエに会ったときの気持ちと比べさせる。
まとめる (8)	5　本時のまとめをする。 ○　本時の課題に対するまとめをする。 ・　ノートに，まとめと感想を書く。 ・　まとめや感想を紹介する。 6　次時の学習を知る。 ○　次時の学習内容を確認する。	・　机間巡視や発表の中で，児童の考えについて良いところを取り上げ，意欲をもたせる。

（３）評価

◎　太一のクエに対する考えが変化した様子やその心情を読み取ることができたか。

（４）板書計画